

28amG-007

いわき明星大学薬学部のイグナイト教育におけるチーム基盤型学習（TBL）の学習成果

○中越 元子¹, 川口 基一郎¹, 野原 幸男¹, 林 正彦¹, 久保 博昭¹, 山崎 洋次¹
（¹いわき明星大・薬）

【目的】本学は、学習の習慣と要領が会得できていない薬学生の潜在能力にイグナイト（点火）することによって、埋没していた学生を今のパラダイムから知恵（智）のパラダイムへ導く基盤的総合教育（イグナイト教育）を1~4年前期まで展開している。完成年度を迎えた今回、チーム基盤型学習（TBL：Team-Based Learning）を活用した4年生のイグナイト教育とその学習成果について報告する。

【方法】TBLでは、4~5人を1単位とするチームに薬学諸領域の課題が与えられる。チームの各自はそれぞれ課題探求・解決のために分担して調査・情報整理・分析を行った後にチーム内で発表・討論し、代替案を含めた一定の結論を導く。各チームは問題解決のためのコンセンサスを心得て結論（提案）をまとめ、学年全体での発表および質疑応答後、相互評価を行う。その後、省察のためのアンケート調査を実施した。また、6年生（1期生）に対しても、イグナイト教育の学習成果に関するアンケート調査を実施した。①学習意欲、②相互学習の成果、③他者への働きかけなどの観点から5段階評価で行った。その結果、3年間を通じてほぼ同様な傾向が認められた。また、6年生アンケートでは、65~70%の学生が社会人基礎力の観点から課題発見力、発信力、傾聴力、実行力などに関して役に立った、または大いに役に立ったと回答した。現在医療人教育で注目されているPBL（Problem-Based Learning）は、学習者の主体性を尊重するため、自主学修力の乏しい学習者に対する教育効果は低く、均質な学習効果を得ることは困難であると理解されている。本学のイグナイト教育は、チーム活動で問題解決を試みるTBLの手法を積極的に活用することにより、均質で高い学習成果が得られたと考える。